2016 大会プレイバック

＜マスターズ甲子園2016・第13回大会＞

2015 － 2016シリーズ開幕

第13回大会では、各地方予選大会で代表権を得た、瀬戸内（広島県代表）、鳳（大阪府代表）、九州学院（熊本県代表）、立川（東京都代表）、鵬翔（宮崎県代表）、不二越工（富山県代表）、小倉東（福岡県代表）、村野工（兵庫県代表）、鳴門渦潮（徳島県代表）、川越（埼玉県代表）、今治西（愛媛県代表）、日大東北（福島県代表）、大東（島根県代表）、神奈川県選抜（神奈川県代表）、鹿児島（鹿児島県代表）、宇治山田（三重県代表）の計16チームが出場しました。このうち、鳳、大東、鳴門渦潮の3チームは現役高校野球部も甲子園非出場であり、高校創設以来、悲願の甲子園初出場となりました。

これらの出場16チームに計723人の選手がベンチ登録、このうち高校時代での甲子園非出場者は628人でした。最年少は18歳、最高齢は、不二越工業高校野球部の立ち上げを知る一人である陸田俊行氏が出場しました。また、九州学院高校からは、4月に発生した熊本地震で被災するも、熊本県予選を勝ち抜き自身初の甲子園出場を決めた清崎貴之氏が出場し、選手宣誓を務めました。

甲子園キャッチボールには、33都府県より計285ペアが登録。元高校硬式野球部関係者（部員、監督、部長、コーチ、マネージャー）であれば、チームメート同士や他校の元選手、兄弟等で参加できる「球友編」に52ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば親子で出場できる「親子編」に177ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば夫婦でキャッチボールできる「夫婦編」に72カップル、また、片方がマスターズ甲子園ボランティア経験者であれば参加できる「ボランティア編」に4ペアが参加しました。

今大会の特別プログラムとしては、東日本大震災の原発事故の影響を受け、2017年3月で休校となる福島県双葉高校野球部OBチームによるシートノックを実施。これを含む、第13回大会の全プログラムを計780人のスタッフ・ボランティアが支えました。